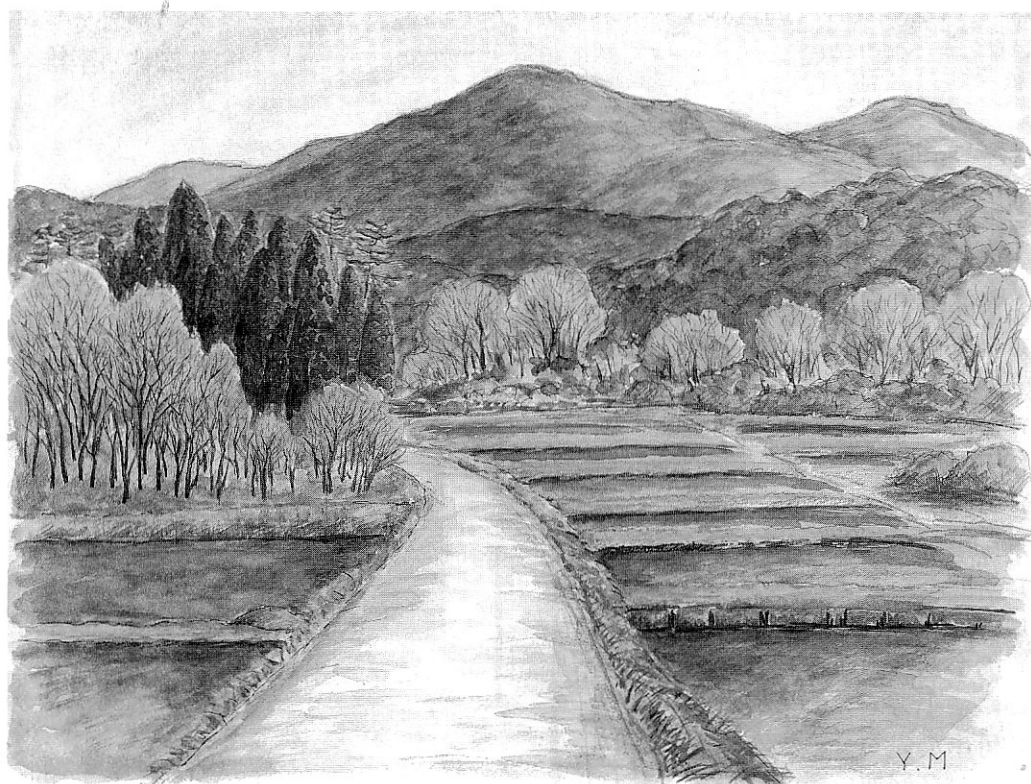


協議会ニュース 49号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 1994. 3



道 樹 山

春日井市と多治見市の境に標高416.3メートルの道樹山（どうじゅさん）がある。

南は定光寺に隣接したところから、北は国道19号線の県境にある内津峠まで、幾つかの峠つづきになった山の最高所がこの山である。

この山稜一帯は愛知高原国定公園に指定されていて、稜線沿いに東海自然歩道が走っている。

（次ページの本文に続く）

★ 表 紙 の 絵 ★

峰つづきの山はなかなか描きにくいので美しく見える所をさがしていたところ、この絵の場所が見つかった。

地名は春日井市の廻間町というところで、岩船神社という小さなお社があり、その森の上手にある浅い谷あいには2～3町歩の水田が開かれている。

春を思わせるような暖かい陽射しを浴びた畦道には、2月に入ったばかりというのに、もうタンポポが花をつけていた。この谷をつめたところに築水池と呼ぶ溜池がある。回りは森林で囲まれていて大変静かな池で、オシドリも姿をみせるという。

松林 幸雄

簡単なウッドクラフト ⑫

名古屋支部 椿 幹雄

笹や新聞紙を利用して紙てっぽうを作ってみませんか？

I. 準備品（1本分）

- 1) 笹軸（節つき、長さ160mm）
- 2) 小刀
- 3) 両面テープ
- 4) 竹串（1本）
- 5) 新聞紙

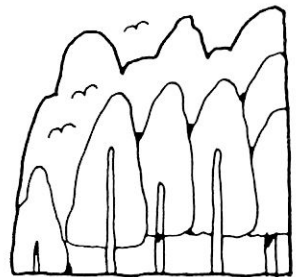
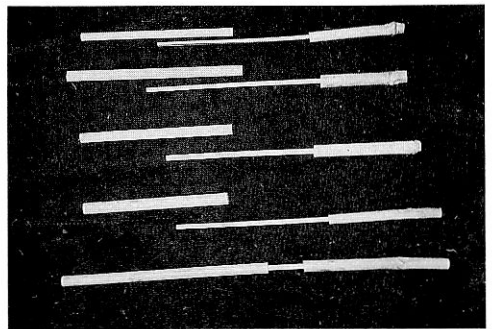
II. 作り方

- 1) 節のところから60mmと100mmに、小刀で2つに切る。
- 2) 竹串の先20mm程を両面テープで1～2回巻いて、節のある60mmの軸に差し込む。
- 3) 新聞紙を水に濡らす。（噛む）
- 4) 100mmの長いほうの軸に入れて、押す動作を繰り返す。

III. 笹軸の穴には、丸みのある竹串などを使用する。

紙は噛んでから使用すると大きな音が出ます。

材料は笹や竹の乾燥したものがよい。



愛 知 県 の 河 川



佐藤 国彦 (日進町)

古い資料ですが、昭和54年に行われた環境庁の自然環境保全調査（緑の国勢調査）の河川調査結果の総括表を下にまとめました。（その後公表された資料がないと思われるため）

県内の主要4河川の本流を、1km毎に区切り、その間の水際の改変状況・河原の利用状況等を調べたものです。従って、下の表の単位は、メッシュ数となります。

水際の改変状況では、1km区間の半分以上が人工化された区間が、豊川では6/80(1%)あり、木曾川では29/59(49%)あるということです。河原が少しでも人工化されているのは、豊川では25/80あり、木曾川では48/59という結果です。

この調査以後、どのように変化しているか、興味あるところです。協議会でもこんな調査をする必要があると思われます。

調 査 対 象 河 川 名	調 査 区 間 実 数 施	水際線の改変状況			河原の土地利用状況				計	河畔の土地利用状況						
		人工化された水際線の割合 (延長の 10 分比)			人工化された河原の割合 (面積の 10 分比)			右 岸			左 岸					
		0～2	3～5	6～10	0～2	3～5	6～10	自然		農	市	自然	農	市		
								樹林地		その他	業地	街地	樹林地	その他	業地	街地
豊 川	80	61	13	6	8	14	3	25	33	2	34	11	31	3	41	5
矢 作 川	118	97	17	4	36	2	3	41	53	2	50	13	57	3	51	7
庄 内 川	46	13	19	14	14	6	8	28	4	7	12	23	9	3	8	26
木 曽 川	59	8	22	29	33	12	3	48	1	15	17	26	0	5	21	33

調 査 対 象 河 川 名	調 査 区 間 実 数 施	河川工作物の有る区間数				取水施設の有る区間数	河 川 の 利 用 状 況										不 快 要 因											
		(魚の湖上)					風景探勝(遊歩道)	キャンプ	温泉	ボート	川下り	常設釣場	漁業	公園	モーターボート練習場	ゴーカート練習場	水のにごり	水面上の汚	悪臭	ゴミ・残材	砂利採取	河畔の道路路面	水量の少な	渇水時のダム湖岸				
		可 能	不 可 能	(魚道)	(魚道)																							
																									有	無	有	無
豊 川	80	2	2	0	3	4	2	0	0	5	0	0	74	2	1	0	0	0	0	13	0	0	0					
矢 作 川	118	4	1	0	2	6	0	0	0	0	0	0	87	4	0	1	0	0	0	28	0	0	0					
庄 内 川	46	2	8	0	1	1	7	0	0	0	0	0	22	0	0	0	23	4	10	23	1	6	0	0				
木 曽 川	59	2	0	0	0	2	10	4	0	2	1	0	35	0	0	0	4	0	0	5	11	0	0	0				

大高緑地の自然を守ろう [大高緑地を愛する会]



石原洋一（緑区）

現在、名古屋支部を中心に、月1回第2日曜日に大高緑地公園で観察会を行っています。私の所属支部は、知多支部ですが、自宅が大高緑地の横のため、この観察会に参加させてもらっています。

大高緑地は、約70haの広さを持ち、森や林の面積はその半分を占めています。また、東側の隣地を買収し、将来120haにする予定もあるそうです。北は国道1号線に接し、南に名四国道、西に知多産業道路があり、そして東側は環状2号線が通ります。幹線道路に四方を囲まれる、都市の中の比較的大きな緑地です。

特別貴重な種が存在するわけでもありませんが、まだセンブリがあったり、ハイタカが出たりします。3年前の早朝に、ぼったりタヌキとはち合わせしたこともあります。ドングリの木が多く、種々のドングリを拾うことができます。自然保存区は、ヒサカキを主体とした常緑樹林で、コナラ・クリなどが混在します。湧水もあるようで、湿地から小さな流れができていて、その近くに少しですがカンアオイが生えています。

特別な自然ではありませんが、都市の中に残された、身近で貴重な自然であることは間違いありません。

「大高緑地を愛する会」は、平成5年10月23日にできました。その年の初め頃、県が大高緑地の改修計画をもっていることを知り、直接県に問い合わせ、平成5年度に構想を決め、6年度に具体的な計画を決める予定であることがわかりました。

それまで、私は、大高緑地でいくつかの団体の自然観察会を不定期にもっていまし

た。その中には、この緑地を園舎のない保育園として、保育に活用していた自主保育のグループが数団体ありました。そのお母さんたちが中心になって会の準備が進められました。こんな時、突然サッカー場問題が割り込んできたのです。

愛知県サッカー協会が2002年ワールドカップの決勝戦を誘致するため、当公園に10万人規模のサッカー場建設を、愛知県知事と名古屋市長に陳情したのです。また、サッカー協会の動きをサポートする議員グループもできているそうです。Jリーグのサインを餌にして、小中学校のサッカー部や大学生を使い、11万人もの署名を集めたそうです。今のところ、サッカー場誘致は県サッカー協会の希望という段階ですが、県も市もはっきり否定しませんし、トヨタの首脳陣も動いているということで、油断できません。

「大高緑地を愛する会」の本来の主旨、目的は、現在の緑豊かな緑地を末長く愛し続けようというものです。

しかし、10万人規模のサッカー場ができてしまえば、緑地の自然は殆ど破壊されてしまいます。会の始めの行動として、ワールドカップのサッカー場反対をせざるを得なくなったのです。

反対署名の用紙がやっと出来たのが12月4日。知事、市長に陳情したのが15日でした。

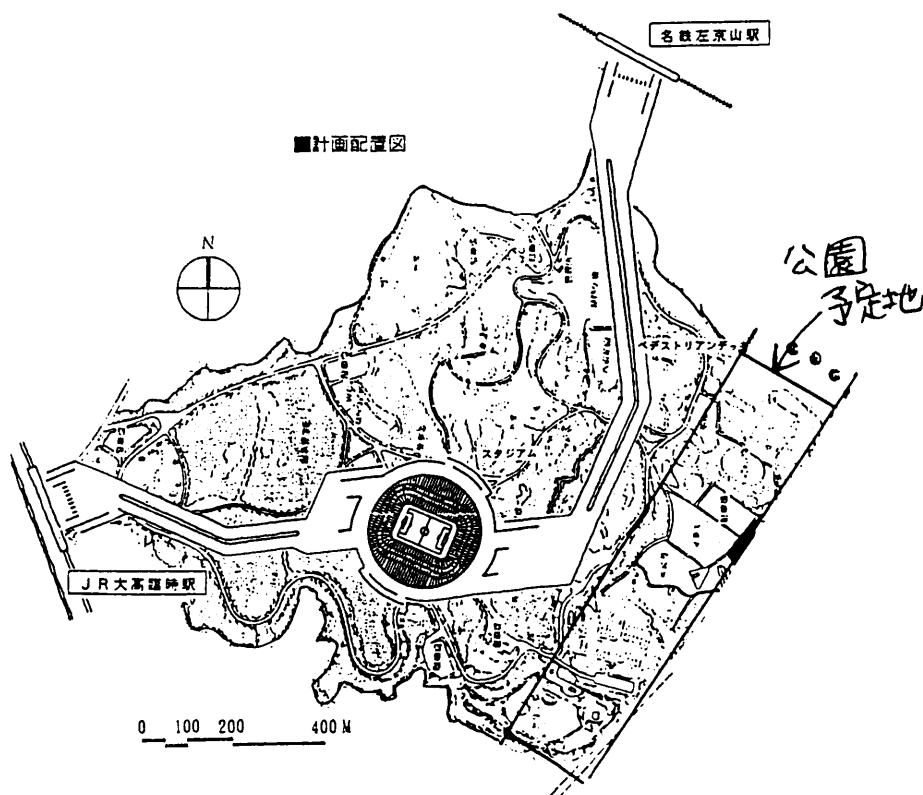
「大高緑地を愛する会」

会費 1,000円（会のたより発行）

郵便振込：名古屋9-34467

た。この10日間に予想を上回る 5,550人もの署名が集まりました。県サッカー協会の11万人と比べるとまだまだですが、それを上回る目標で、今後も署名を集め続けてい

きます。また、当面の具体的行事は、1月23日に「たこ上げを楽しむ会」、3月下旬に盛大に「緑地公園まつり」を予定しています。



会 員 の 動 き

【脱 退】

- ・伊東仙治郎（東三河支部）
- ・佐藤正利（東三河支部）

【住所変更・表示変更】

- ・岩山正光（尾張支部）
〒487 春日井市高蔵寺町 5-11-17
（☎ 0568-51-7295）
- ・鈴木 久（名古屋・尾張支部）
〒487 名古屋市守山区川宮町 124-2
（☎ 052-791-5486）

- ・鷹羽保夫（知多支部）

〒474 大府市朝日町 1-172
（☎ 0562-48-3394）

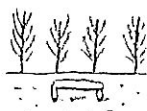
- ・山田一孝（名古屋支部）

〒487 春日井市高蔵寺町 5-11-17
（☎ 0568-51-7295）

※ 前回送付した会員名簿で松井實一さんが抜けてしまいました。お詫びして訂正します。

- ・松井實一（名古屋支部）

〒453 名古屋市中村区則武 1-1-7-805
（☎ 052-452-8159）



1 フィールドに出る

昨年の私の自然観察ノート（タイトルはFLORA & FAUNAで、22年前から継続中）で、フィールドへ出た日数を調べてみたら、延べ96日もありました。土日祝日は殆どお出かけという感じです。

ちょっと時間があれば、何はさておきフィールドへというのが、生活の基本です。カメラ・野帳に加えて、フィールドスコップか捕虫網を持って外へ出ることが全ての始まりと言うところです。

2 何にでも興味を持つ

昆虫に始まり、植物・野鳥・哺乳類・水生生物と何でも興味を持つと、一年中オフシーズンは無くなります。図鑑などの本代と写真代が少しかさみ、頭がパンクしそうになりますが、自然をあらゆる方向から見るために、自然の仕組みが少しずつ見えてきます。

何よりも、地域の自然の絶対的評価（特に希少性）を適格に判断することができます。自然保護活動をするためにも大きな武器となります。

3 すぐに調べて、記録する

私のモットーは、「名前を覚えよう」です。本当に自然に親しむためには、それを構成する生物達の名前を覚えることが必要だと思います。（異論もあるでしょうが）

名前を覚えるには、図鑑で調べるのが大切で、他人に教えてもらった名前は少しも記憶に残らないものです。そして、名前を調べるためには、細かいところまでじっく

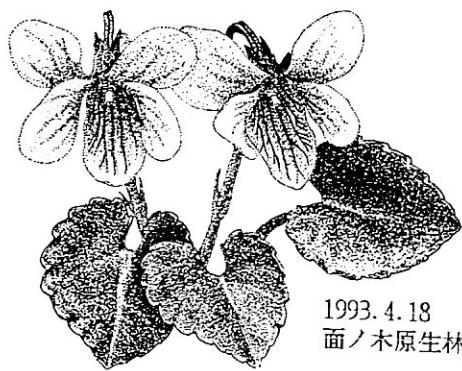
り観察することが必要になります。これを繰り返していけば、どんどん観察眼は鋭くなるでしょう。また、調べたことや感じたことは、必ず記録することが最も重要なポイントです。自然は、時間と共に常に変化しているもので、継続した記録がそれをはっきり示してくれます。

4 自然観察会を開く

いくら知識を集積しても、それを社会に還元しなければ、知識の死蔵になってしまいます。自然観察指導員の役目は、やはり自然観察会を開き、一人でも多くの人に参加してもらうことによって、自然を愛する人を増やし、ひいては自然環境を守っていくことです。

去年は、毎月1回の面ノ木倶楽部、尾張支部や随時開催される瀬戸自然の会・豊田市自然観察の森など、計44回の観察会や研修会を実施しましたが、私にとっても毎回新しい発見や驚きがありました。

自然観察を通じて、多くの人に自然の素晴らしさや知識を伝えながら、リーダー自身も楽しむこと、これが大切なのです。



1993. 4. 18
面ノ木原生林

ヒメミヤマスミレ

2月13日 森林公園植物園 9:20~13:30 天気 ☀

参加者 10人(稚2人) 長谷川、北岡、松尾、平井、鬼頭
(友会) 笠井(ご夫婦)、上等

最低気温が名古屋で-2.7度。前日降った雪が残る、凍てつく日でした。

第一駐車場北側の案内所近くで待っていると、カワウが3羽、脇腹にある白い斑点を見せながらこずえをかすめるように飛んでいきました。ゴルフ場東側の大広見池でコロニーを作って暮らしているようです。そうこうしているうちに、トビが三羽まい始めました。

明るい日差しのなか植物園へと歩き始めました。植物園までにムクドリ、キジバト、ヒヨドリ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ルリビタキ、コゲラ等が見られ、雪のなかで鳥たちの持つ色の美しさに見とれました。植物園内のコースは第一苗畑から郷土の森をへて、展示館から花木区を通るものです。苗畑ではクロモジ属のアオモジ(京都より西の地域にあるという)のレモンジュウスのような香りを楽しんだり、クチナシや大きなテーダマツの実を見たりしながら雪の中を歩きました。だれも踏んでいない雪の上をさくさくと歩くのも気持ちのよいものでした。整然と並んだメタセコイアの林の側に足跡が点々と続き、アニマルトラッキングも楽しみました。鳥やノウサギ等の足跡も見ることができました。11:30分頃展示館に着き、日の差す玄関付近で南の斜面を眺めながら弁当を食べているとハイタカが姿を見せてくれ、最高のご馳走になりました。

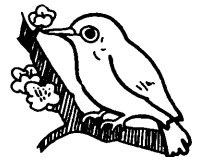
雪が残る長靴のいる寒い日の散策でしたが、それなりに楽しめた月例会でした。

出会った鳥 27種

ウ トビ ムクドリ キジバト ヒヨドリ ハクセキレイ
カワラヒワ ルリビタキ ツグミ シロハラ メジロ
シジュウカラ コゲラ ウグイス カケス ハイタカ
アオジ エナガ ヤマガラ ジョウビタキ アトリ
コサギ カルガモ ハシボソガラス セグロセキレイ
スズメ ドバト

そのあと、近くの大広見池で見た鳥

ミコアイサ ハシビロガモ
コガモ マガモ カイツブリ
オオタカ(成鳥)



3月からこの植物園を中心に月一回の観察会をやっていこうと思います。

森林公園観察会

(8月は第二日曜日)

毎月第一日曜日

9:00~12:00

大人のみ

入場料 200円

集まるところ 第一駐車場北の案内所前



1993年11月14日、東三河支部主催の今年第3回目の自然観察会が豊川市の財賀寺の境内において開かれた。参加者は67名、これに指導員15名の計82名という盛況であった。これも、ムササビの観察がメインテーマになっていたからであろう。また、豊川市の市政50周年記念行事に協賛した会でもあった。そこで、豊川市の広報に2回ほど掲載されたことから、豊川市内でかつ初めての参加者が多く見られたことも盛会につながったのではと思っている。

今回の観察会はいつもと違って午後から行った。それは、夕方にムササビの観察を取り入れるためであった。当日の観察会は2部制とし、第1部においては「財賀寺の森、秋を探そう」をテーマに財賀寺の森の秋の自然を観察した。ポイントでは野生動物の話、植物の種子散布の話、森林性の昆虫の話、基盤岩の風化の話、ネイチャーゲームなど多様な内容で行われた。第2部では第1部の野生動物のポイントにおいて野生のムササビの観察を行った。

第1部のポイントとポイントとの間ではシイの実を拾ったり、紅葉しかけたカエデの葉を拾ったりしながら指導員が案内した。拾ったシイの実は第2部のムササビの観察が始まるまでの休息時間に炒って食べた。おいしかったけど、ゾウムシの幼虫が多く入っていたのにも驚かされた。また、森林性の昆虫のポイントでは数年前の台風によって倒されたシイの倒木から野生のシイタケが多く発生しているのも見つかった。

第2部に入り、まずムササビの観察に必要な話を指導員から聞き、観察ポイントに移動した。観察ポイントについて再度注意事項の再確認を行った。何しろ70人を越す大所帯（都合によって数名が第1部のみの参加となったため）、しかも小学生以下が20人、ついつい騒がしくなってしまう。日没後、息を殺して待つこと15分ほど、担当指導員からの指示で見やすい位置へそっと移動、赤いセロファンで覆った懐中電灯を目の横につけ、巣穴を照らすと巣穴の中に赤く光る二つの目、ヤック！ムササビの目だ、キョロキョロと辺りを窺う様子。回りからは見えた見えたと呟きの声、会を企画した者としては安堵の瞬間、同時に担当の指導員に感謝の気持ち、もちろんムササビくん（コウタローくん）にも。さらに待つこと10分ほど、ムササビが巣穴から体を乗り出したかと思うと、すーと出て来て、木の裏側へ、それ、とばかりに全員、木の反対側を見に移動するがムササビは他の木へ移動した後、本来ならもう少し静かに待機し、他の固体の通過を観察することもできるが子ども達は既に限界、風もあり回りの物音もよく聞き取れないので今回の観察はここで中止とする。解散の後、駐車場へ戻る途中にムササビの声を聞くことができた。

今回の観察を企画するに当たって、数年来この財賀寺の森でムササビの行動を研究している神戸指導員に感謝。また、快く会場を提供してくれた財賀寺の和尚さんにも感謝したい。さらに、当日や下見に参加してくれた指導員の方々にも感謝。



名古屋自然観察会 (愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部)

1994年1月10日 No.Ⅳ-10

名古屋支部代表 浅井 聡 司

TEL 052-703-9482

なんじゃもんじゃ通信

自然の詩 “ 秋 ”

澄んだ空気の	秋の空
ずっとつづいた	コスモスの
切れたその先	林には
秋の気色の	セピア色
木々のこずえの	葉の色も
こもれ陽さえも	セピア色
すんだ空気の	秋の森
切り裂くモズの	鳴き声が
鋭くやぶる	しじまにも
黄色の落葉が	舞い落ちる

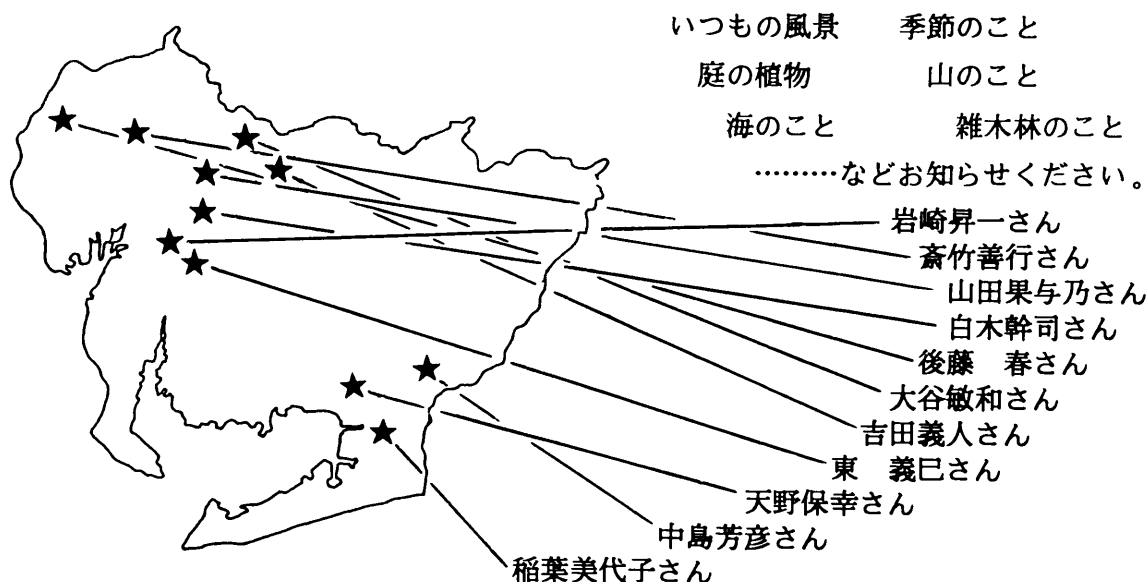
篠田 陽作

TOMBOWの咬き 白いものは雪。それは、水が作り出すキャンパス。雪の上に足跡を残すのは人間のみではない。山に入れば、ネズミ、ウサギ、キツネ、タヌキ、リスなどの獣たちが足跡を残す。古来、人々は関わりのある生き物たちが、姿を現わす。1月15日、雪の降った翌日に京都の北山で、アイマルトラッキングをする。自然を親しむ人たちと共に楽しい一時を過ごす。しかし、冷たい、滑る。楽しみの裏には危険がつきものだ。

名古屋市内の小湿地にまた珍種が加わった。堀義宏さん(名古屋市衛生研究所)の報告によるとニホンアカジマウンカ・ハウチワウンカ(半翅目)が見られるということです。ニホンアカジマウンカは、体長約4mm灰緑色の体色に黒縁の前翅に

赤縞模様がある。マルウンカ科Ommatidiotus属の一種で、旧北区に広く分布し、ヨーロッパを中心に15種が知られている。ヨーロッパではワタスゲの生える湿原で普通に見られるものらしい。ハウチハウンカは、小型のウンカで、グンバイウンカ科Trypetimorpha属の一種で、日本では九州、中国地方など西日本を中心に点々と産する。

私の自然



私のフィールドは名古屋市緑区の大高緑地というところです。ここはJR大高、名鉄左京山、国道1号・23号などから近く、都市近郊の自然公園として、家族連れや初心者の観察会をおこなうにはうってつけの自然公園といえます。しかし最近、その利便性からか、大規模サッカー場建設の話がもちあがり、このまま実行にうつされると公園の自然度が極端にそこなわれることが確実であり、現在一部の有志でサッカー場建設を別の方向（たとえば自然博物館の建設等）にもっていこうと運動をしている状況です。

大高緑地は名古屋東南部の丘陵地帯で、マツ・コナラ・ヒサカキを中心とする2次林で構成されています。ただ、ごくわずかではありますが、ノギラン・コモウセンゴケ・シロイヌノヒゲ等が自生する湿地もあります。約2年ほどの調査ですが、竹・シダ・地衣類を除いておよそ260種ほどの植物が観察できました。

この公園は、アクセスの良さと都会の中にあるわりに良好な環境が残されているという面で、観察会の実施、特に指導員の養成のためのフィールドとして最適ではないかと考えるしだいです。

ここでは毎月第2日曜日の9時30分から定例の観察会がおこなわれています。指導員にはなったものの、実際の活動については今ひとつふんざりがつかないでいる方々にぜひとも参加していただき、指導員としての基本的な知識とキャリアを身につけていただきたいと思います。



岩崎昇一

「ビオトープ」考（その1）

鎮守の森とトンボ池

齋竹善行



環境問題が脚光を浴びるようになって、最近、野生生物との共生をテーマに「ビオトープ」（野生生物の生息空間）ということばが聞かれるようになりました。

さて、私のすむまち岩倉でも宅地化により身近にあった農地や竹やぶなどが減少し、加えて農地も土地改良によりその姿を大きく変え、今まで以上に昆虫や野鳥がすみにくい環境になりつつあります。さらに、土地改良が終わると、農地は順次宅地へと転換されて、今までの田園の姿は失われることと思われます。

そんな中で、土地改良に伴う公園整備の一環として、今までの田園の姿を継続するような公園づくりが地元で持ち上がり、鎮守の森に隣接する土地にトンボ池を中心としたビオトープづ

くりが話し合われています。この津島神社の森は、面積は広くありませんが、カシを中心とした林で、岩倉の中では最も自然度の高いものですが、道路建設のため、一部が伐採されるなどその保全が心配されていたところでした。

すでに昨年夏から、地元の協力と市の理解のもとに、私たち自然愛好家も加わり、浅い池を掘り、浅層地下水をポンプで汲み上げて流し、暫定的にトンボ池が設けられました。その結果、昨年、ここで、アジイトトンボ、オニヤンマ、カトリヤンマ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、ナツアカネ、アキアカネ、マユタテアカネ、ノシメトンボ、ウスバキトンボの11種が確認できました。



岩倉トンボ池 93.9.5

絶滅植物に出会って

山田 果与乃

春日井にも、途切れ途切れに残る自然の中に、絶滅に瀕する植物が暫く生きながらえています。

去年の丁度今頃、冬の最中のこと・・・いつものフィールドを歩きながら、先ず左右に小さな葉を広げたイチヤクソウの株をいくつか確認しますが、毎年、花は2～3株しか見られません。

ほの暗い小道を抜けると急に前方が広がり、用水池につながるように田んぼが開け、背後の低い斜面には所々に落葉樹の梢が寒そうな色合いを見せています。あの林の中には水脈の走る湿地があり、絶滅危惧植物にあげられているサクラバハンノキがハンノキに入り混じって息づいているのです。

田んぼに沿って続くだらだら道をたどり、急に横道にそれると、藪漕ぎで低い崖のような地点に入ります。・・・・・・と、何か常緑樹の束ねられたようなひと重ねが横たわっているのが見え、何気なく拾い上げてみると、何と、まぎれもなくあの絶滅に瀕するイ

ワナシなのです。

根元の部分から下に、直径5ミリ程の根が、途中でちぎれたような形で2センチ位残り、根元から上は、10本程に分かれた枝(?)幹(?)が伸び上がり、30センチもあろうと思われる枝もあり、一部の小枝には毛無垢じやらの芽鱗に包まれた花芽が3～4個しっかりとついているのです。

いままで幾株か見つけてきましたが、こんな大株に会えるのは初めてのことです。心を痛めながら、標本にすべくビニール袋へそつと収めました。

まだまだこの辺りには見られる、顔を出さばすぐ盗掘されてしまうラン科類や、去年は全く花を見せなかったシロバナカザグルマなどは、遠からず絶滅に追い込まれてまうことでしょう。

皆さんは、日本の野生植物の3分の1程度が絶滅の恐れがあるという意見もある現在を、どのように考えられるのでしょうか。

イワナシ (ツツジ科)



サクラバハンノキ (カバネギ科)



山崎川ウォッチング(2)

白木 幹司

…… カワセミ・コサギ・ダイサギ

の漁業権争い ……

1月23日(日)午前11時頃、153号線にかかるひさご橋の少し上(かみ)で、このところよく見かけるダイサギが、ゆっくり歩きながら、オイカワをときどき捕って食べていた。

300ミリ望遠レンズで狙っていると、少し上の折戸橋の向こうからコサギが飛んで来て、ガーと鳴いて近くに立った。チラチラとダイサギを気にしていたが、ついに我慢できず近づいて威嚇のポーズをとっている。ダイサギは知らぬ顔。

コサギは落ち着かず、さらに近づいたりしている。そこへひさご橋の東の橋の下に巣を作って、この辺りをNo.2の狩場になっているカワセミが現れた。巾20センチ程の上段のコンクリート面が彼の定位置だ。

やはりダイサギのうまい狩りが気になってか、かなり近づいても逃げない。2メートル程に近づいても対岸に移るだけで、いつものようにはるか彼方へは、飛び去らない。おかげで、その美しい姿を何枚も撮れた。

カワセミは、それでも2回ばかりダイビングして、2尾の収穫をあげた。

ダイサギとコサギは、ついにお互いに興奮して、水面から1メートル程の作業道のコンクリートに飛び上がったたりしてお互いに牽制し合っている。おかげで、2羽とも望遠の狭いファインダーに収まった。そこへ何と、カワセミまで一瞬入り込んできた。が、すぐ飛び去って、旧式の手巻きカメラではキャッチできなかった。人間が興奮して、残念でたまらない。約50分、カワセミは巣に戻り、コサギも上流へ去って、わがフィルムも一巻の終わりとなった。

それにしても、車の往来の激しい幹線道路の下に巣を持つカワセミの図太いこと。彼のNo.1の狩場は、もうひとつ川上の折戸橋の上手で、No.3の狩場はずっと上(かみ)の千種区の日岡橋の下手だ。----- なぜか!?

それは、白い直線となって噴射している糞の跡の密度によって、私が決めただけなのですが……。



ダイサギを気にしているカワセミ



ダイサギを威嚇しているコサギ



小さなオイカワを捕ったダイサギ

鳥達のねぐら

後藤 春

尾西市の小信中島小学校前の道を西へ、木曾川堤の東側で、陽光を受けた緑の叢林は、アラカシと見て近づきました。よく見ると、葉陰になんとゴイサギが10羽余、静かにとまっていて、時々あの赤い目を向け、クワと低く鳴いて動きません。

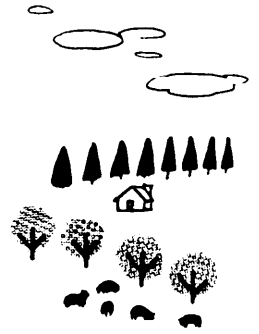
私が初めてゴイサギに会ったのは、約10年前の一宮市妙興寺境内で、杉木立の中に、茶色の斑紋のある幼鳥と共に、30羽以上いました。夜の境内はコサギのねぐらとなっていて、夜明けとともに、朝出のコサギが、次々と羽音静かに西方へ飛び出します。

私が少し待つ間もなく、夜行性のゴイサギが、2羽、3羽と帰ってきました。上空で2度ばかり廻っては、木の枝に降ります。

これは一大ドラマ……。

数年前、寺の大屋根が葺き替えられてからは見られなくなり、ゴイサギ・コサギ達は、ねぐらにする場所に困っているでしょう。

(1994. 1. 14)



私の観察法

大谷 敏和

私は、大人までほとんど植物名を知らなかった。生物は種類も多く自分で自信をもって名前が言えないので、私にはとっつきにくいものであった。はっきりとした根拠がないと、いい加減なことをやっているようで、いやだったからである。ところが理科の教師になり、生物も教えなくてはいけない。これは困ったことだということから、花のつくりから花の名前を同定することを勉強して覚えた。

子供の頃、機械いじりが好きであった。なかでも、たった3～4個の部品で鳴るゲルマニウムラジオには、とくに関心を持った。ものというものは形を変えたり、ものの組み合わせを工夫するだけで、まったく新しい性質・現象が現れたりするもんだと、子供なりに楽しんだ。

花のつくりを勉強することは、まるで精密機械の勉強をしているようでおもしろかった。おしべの長さとか熟す時期だとかを、受粉のしくみと結び付けたりした。そして、昆虫の世界と関わりにも関心がひろがった。だから植物を始めたばかりのときは、春か秋しか野に出かけていない。

ところが、北岡氏との出会いから自然観察指導員になり、五感を通した観察法を学んだ。自然のすばらしさを、自分の目で見、耳で聞き、体で覚えることが基本だと考えるようになった。

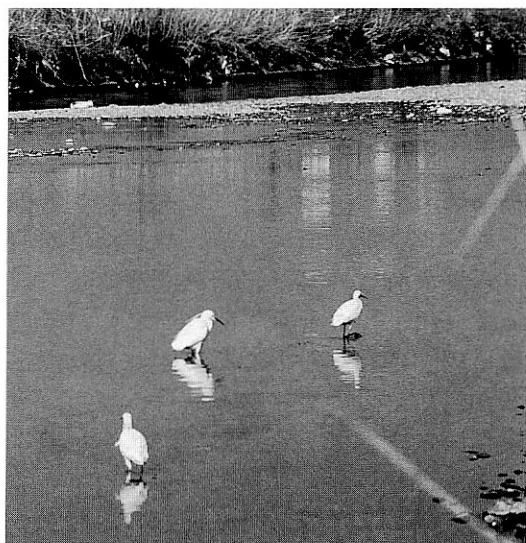
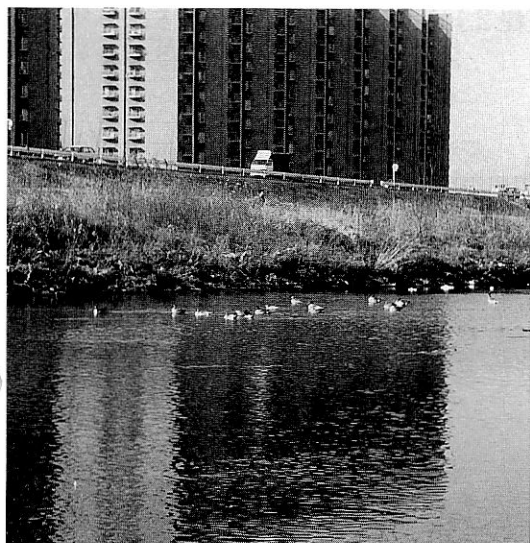
冬の野山へ出かけて行っても、たくさん感動するものが得られるようになった。今年も新しい発見のある年でありたい。

矢田川緑地

吉田 義人

今年の冬は、寒さが穏やかなので、家の近く（守山区）の矢田川河川敷に、子供を連れ、よく出かけます。川の向こうは千種区で、高層マンションが林立し、青い空に映える様は、乾いた不思議な美しさを感じさせます。川下には鈴鹿の山並が見え、夕日の落ちていく空の微妙な変化は、見飽きることがありません。近年、公園として整備され、バトミントンやキャッチボールをする人、犬を散歩させる人、小さな子供からお年寄りまで、さまざまな人が集まってきています。

春は、ほのかな甘い香りを放つクローバーの群落が中央部の芝生の中に、また、堤防の斜面には、イネ科やギシギシの類が多く、そのへりのところにキキョウソウやマツバウンランが彩りを添えています。



毎年、二月末から三月初めにかけて、暖かい日中、ヒバリの初鳴きを聞くことができます。よく観察してみると、少し背丈の伸びた河原の植物やアベリアの生け垣の中に巣を作っています。故郷である宮崎では、青い穂がほどよく伸びた麦畑の中を、よく追いかけたものでした。スズメとよく似ていますが、少し大きく、冠毛を持っています。

夏はイワツバメ、冬はカモ類・カワウ・ユリカモメ、また、一年を通じセグロセキレイ・カワセミなど、さまざまな鳥の姿を楽しむことができます。

ただ、最近気になることは、川の水量の減少です。晴天の日が数日続くと、水が極端に減り、干上がってしまっています。

いつまでもせせらぎの音が絶えることのないよう、願っています。



勅使池（別名 勅使ヶ池）雑感

東 義巳

勅使池は名古屋市緑区と豊明市の市境に位置している。周辺には雑木林や住宅、農耕地、テニスコート、ゴルフ場などが点在し、現在では池の西北部で、大規模墓地在整備されつつある。

勅使池の名称の由来は、池の東にある碑文によると、「勅使池の沿革 勅使池は面積三二町八反余あり 県下屈指の溜池で昔 後奈良天皇（注1）の大永年間（注2）に勅使を差遣し創設されたものである因って勅使池と命名された 云々」とある。

現在の勅使池は三京養魚が約二十年前より鯉の養魚池として一部を利用している。そのためか、はたまた生活排水流入のためか、数年前よりアオコが冬でも発生して、池の水は緑色となし、年々汚濁が進行している模様である。かつての沈水・浮葉性の水草は絶滅し、水の透明度も約二十センチと悪化しているのが現状である。

池の周囲には「勅使池及び 用地内に入るべからず 地主 勅使池水利組合」の表示板が設置されているが、私は、社会通念上無害通行であればとの勝手な解釈で、今回は散策してみた。

養魚場から南に行くと皇勅院が見えてくる。鹿八大龍王神・白姫白龍王神を祭る神社であるが、当日（一月二日）は新年の大祭の行事中であつたために、近郷近在の信者が見られた。

池を右廻りで進むと、岸边にはヤナギの一種が、幼木で数多く自生しているのが見られる。この池では抽水性の水草も数少ない。


池に目をやると、マガモ・コガモ・ハシビロガモ・カルガモなどが見られ、一帯が禁猟区のためか数が多い。

前出の養魚場の関係者の話によると、「ウ

に鯉が食われる」と話をしていた。大変らしい。

それでは目前の雑木林に入ってみよう。ソヨゴ・ヒサカキ・カクレミノ・コナラなどの樹木が見られ、林の中は、そんなに暗くはない。

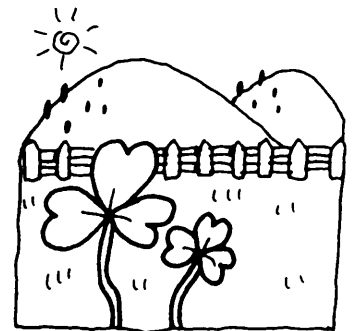
林を出て北に進むと、前方の林縁に白いアオサギ・カワウの姿が見られ、そのフンで完全に枯死した樹木も散見できる。

それから愛知用水勅使サイホンを見学し、戦後、佐久間ダム建設のために立ち退き、当地に入植した家や「勅使池緑地を守る会」の建物を右に見て墓地まで足を延ばし、途（)地域の住民と会話した。

そして、雑木林の不法投棄のゴミ問題、ウと枯れた植物、養魚者と鳥の関係を考えながら帰路についた。

（注1）大永1521・8/23～1528・8/20

（注2）後奈良天皇 在位は大永6年（1526）～弘治3年（1557）



遠見山 冬芽探検

天野 保幸

冬の雑木林、何もないようだけど私は好きだ。何よりも他の季節にはない静かさがいい。でも、よく耳をすますと結構騒々しい、鳥の鳴き声、落ち葉の風に吹かれて移動する音などなど。でも、最も楽しみなのは冬芽と葉跡の観察である。実に様々である。常緑樹でも落葉樹でもいろいろな冬芽が見られる。鱗片に包まれた冬芽、密毛に包まれた冬芽、葉柄の基部が巻き込んで残って保護されている冬芽などなどいろいろである。さらに楽しいのが葉跡である。様々な文様を持っている。動物の顔に似たものなど様々である。こんな自然の造形が身近に見られるのは、私が豊川市の西の外れにある御油町に住んでいるからであろう。10分も歩けば観察フィールドである。中でも遠見山は低い山ではあるが植物の種類も多く、1日歩いていても飽きないほど多くの自然を見せてくれる。尾根線の三河湾が見えるところで休息、携帯用のストーブとコッフェル、それにコーヒー豆とおにぎりがあれば最高である。しかし、この遠見山一帯も開発の手がすぐそこまで来ている。数年後には、ここに豊川市の総合公園ができるそうである。どんな施設になるのか、自然はどのくらい残されるのか今から心配している。



※記載地 豊川市御油町遠見山



里山の今昔

中島 芳彦

正月、半年ぶりに新城の実家を訪ねる。下の娘に私の幼き日の城を見せたくて山に入る。煙に咽び遊んだ炭焼窯周辺はアラカシが生い茂り、窯はすでにその姿をとどめていなかった。また、落葉スキーをした坂道は荒放題で、とても人の通れる状態ではなかった。松山の梢を渡る風の音はなく、ただ枯れ果てた松の遺骸が冬空に不気味であった。

里山、そこは農家の人達が生活する「かて」を供給し、山村の農民と里山は切り放せない関係にありました。私の記憶では冬の里山はにぎやかでした。整備された山路は何処までも続き、牛に山車をひかせた一家総出の山仕事の列が見られました。

雑木林は定期的に切り倒され、炭の原木や椎茸の親木にされ、山は丸坊主にされてしまいます。明るくなった山には草が生い茂り、今まで抑えられていた好日性の植物が、その勢いを増します。数年するとクヌギやコナラ等の雑木は、切り株から数本の幹を伸ばし、林を作り、復活の兆しを見せます。

一方松林は、間伐材や下枝は薪に、松葉は丁寧に集められ「温床」の材料となり、牛馬の糞と程良く混じり発酵し「さつまいも」の発芽を促したのです。



里山と農民との絆は大きく、常に手入れされ大事に扱われてきました。しかし、LPガスの普及と芋澱粉の減退（食生活の向上）を境に絆は断ち切れ、更に高度成長時代に経済効率の悪い林業は外材に押され、戦後植林された杉・檜も手入れされずに荒れ放題となってしまうようだ。

これでいいのか里山？ 間伐されずに育った杉檜は50才を迎えてもその価値が上がらず、行き着く先は都会人がもたらす「ゴミ捨て場」や「乱開発」におびえている。



里山で遊ぶ子供達の歓声はなく、松林を渡る風のざわめきも聞こえない。

「うるさい程鳴いていたマツゼミ（ハルゼミ）の声が、この頃は少なくなった。次は田圃の荒廃か！」・・・年老いた父が吐き捨てるように呟いた。



豊橋市東小浜町 春の七草観察会

H6. 1. 16

稲葉 美代子

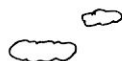
家族全員集合した正月三が日も過ぎ、また二人の生活になる。一月六日七草の前日、春の七草を観察し七草粥を賞味する会に参加する。

籠もよみ籠持ち堀串もよみ堀串持ちこの岡に菜摘ます子 家告らせ 名告らさね・・・と口ずさみたき絶好の摘み草日和。

セリ ナズナ ゴギョウ ハコベラ ホトケノザ スズナ スズシロ 春の七草

六つはよく見かけられるが、ホトケノザとコオニタビラコは容易には見つからない。今日はしっかり覚えようと、豊橋駅前からバスにて四十分、田原町黒河（黒河湿地の近く）へ向かう。バスを降り十五分程、道端に早や咲くナズナ・ホトケノザ・ノボロギク（七草ではない）などを観察しながら目的地へ。

目を皿にして見つけた三稜程のやわやわホトケノザを掌にのせて、「白い汁が出ない葉はタンポポに似ていますが、小さく柔らかい毛はありません。」と説明を受け、皆一斉にまんまるくなって探す。確かめ合っては歓声が上がる。



セリも赤褐色に染め、地に這いつくばっている。これこそ春の香を放つ。タネツケバナも白い花をつけている。

「ホトケノザは人が優しく撫でるように耕した田圃だけに育つ。一度休耕したり大きな機械を入れると絶えてしまう。人と土とのコミュニケーションが大切である。」という説明に一同頷き、自然に残された大切な植物をじっくり観察し自然の大切さを実感した。

さあ、待望の七草粥を田原ホテルで賞味する。湯気が立ち、滑らかな粥に七草の香りがほんのりと漂う。幸せいっぱいの日。

・・・想いで・・・

火鉢に網を置き、切り餅の端っこをのせる。誰となくコロコロ手返し。やがてプーと膨らむ。「あっあつ」と、この感動は忘れられない。今年、孫達が火鉢を囲み、しきりとお餅を焼き喜び合っていた。この光景がうれしい。



〔運営部会〕

★ 新加入の皆様へ

平成5年10月の自然観察指導員講習会で新たに協議会に加入された方に、その後参加された自然観察会の感想をお送りいただくようお願いしました。現在、数名の方からご返事があっただけですので、メモ書きで結構ですから、3月半ばまでには、お送り下さるようお願いいたします。



〔普及部会〕

★ 新人指導員研修観察会の予定

④ 「土壌生物の観察」 4/17(日)

東山公園 9:30 東山植物園正門前集合

⑤ 「干潟の生物」 5/22(日) 庄内川河口

9:30 名古屋市野鳥観察館前集合

★ 普及部会の結果

〔期日〕 平成6年2月11日(出席:10名)

〔場所〕 県産業貿易館

〔内容〕

本年度最後の部会ということで、今までの反省や意見交換を行いました。その主なものは、

- ・ 自然観察指導員制度ができてかなりたつが、まだ社会的に十分知られていないので、社会的に認知された会になるよう努力する必要がある。
- ・ 指導員のレベルを上げることも大切。
- ・ 指導員とか協議会の性格や目指すことなどをもっと議論する必要がある。
- ・ 事務局としては、指導員制度に問題意識を持っているので、今後いろいろな場で検討していきたい。
- ・ 観察会の参加者が子供から大人まで巾が広く、経験者や初心者が混ざっているので、班の作り方なども工夫する必要がある。

・ 参加者に老人が増えているので、持病等を持っている場合も多く、何かあったときの対応や必要な知識の取得を考えることも今後の課題である。

★ 環境教育研究会(第4回)

〔期日〕 平成6年2月11日(出席:14名)

〔場所〕 県産業貿易館

今回は、愛知教育大学の金森先生をお招きして、環境教育の中で自然をどのように扱うかについてお話を聞きました。

〔調査部会〕

★ 哺乳類分布調査



前にもお知らせしましたが、「哺乳類分布調査」をこの春過ぎまで行っています。その後、ウサギ・キツネ・ヌートリアなどの情報がいくつか寄せられています。

哺乳類の姿、足跡、糞等を見たら、「月日・その場所・動物名・確認した方法」を事務局(北岡明彦又は佐藤国彦)まで、ご連絡下さい。

★ 中部の湿原

協議会では、東海財団の委託により、中部の湿原についての冊子を作ることになりました。この調査・執筆に参加を希望する方がありましたら、事務局(北岡明彦又は佐藤国彦)まで、ご連絡下さい。

〔編集部会〕

機関誌には皆様の声や情報になるべく多く載せていきたいと考えています。原稿をどんどんお送りください。「私の自然」コーナーの原稿も特にお待ちしています。県内各地の自然についての出来事や季節の状況についてお知らせ下さい。

原稿送付先は、伏屋光信(住所はP21に記載)まで。

「ものみ山自然観察会」のお知らせ

3. 21 (月) 春分の日

10:00~12:00 県労働者研修センター 第三会議室

- ・「瀬戸の生きもの調査説明会」
- ・午後から楽しい樹木散策あり!

4. 3 (日)

10:00 愛知環状鉄道「山口駅」集合

- ・「シデコブシウォッチング」
- ・弁当, 水筒, 200円

4. 10 (日)

10:00 愛知環状鉄道「山口駅」集合

- ・県自然観察会尾張支部観察会
- ・海上(かいしょ)の森の観察
- ・弁当, 水筒



4. 24 (日)

10:00 愛知環状鉄道「山口駅」集合

- ・「春のものみ茶屋」
- もんごりなら餅・五平餅・リョーブご飯
- 葉草茶あり



問い合わせ先 ものみ山自然観察会事務局 84-2953
83-9438

☆編集後記☆

★ 長かった冬も終わり, 地下にもぐっていた虫たちも, ようやく顔を出す時期になりました。このあいだ, 雪が降り続いたとき, うちの子2人が, 雪をあちらこちらから集めて, 苦心しながら, 庭のすみに窯倉を作っていました。

窮屈ですが, 2人はいったところで記念にカメラでパチリ。

あれから, ずいぶん暖かくなりました。



★ 協議会ニュース, 今回も多くの方々から, たいへんな御苦勞の, そして, 奥の深い, しみじみとした投稿をいただきありがとうございました。編集にも力がはいりました。もうちょっと, もうちょっととやっているうちに, 時がどんどん過ぎていきました。この協議会ニュースが冊子になり, そして, みなさん方に届くころには, いくつかの行事案内が, 行事記録に変わっていることと思います。

ここのところは, 事情をお察しのうえ, なんとか御了承をお願いします。

★ 次回原稿の締切は3月末日です。御協力をよろしくお願いします。

★原稿送付先

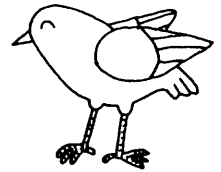
編集部 〒491-02 一宮市奥町内込47-4 伏屋光信 TEL0586-61-4132



3月～5月（中旬）の行事案内

★他支部の行事にも参加できますが、急な変更があるかも知れませんので照会の上、ご参加ください。

①主催 ②集合場所・時間 ③照会先 ④行事のテーマ・内容 ⑤参加費用 ⑥備考



「3月12日（土）知多自然観察会」

- ①知多支部
- ②東海市大池公園動植物資料館前9:00
- ③加藤寿芽 ☎0562-83-8425
- ④朽ち木に棲む昆虫の観察
- ⑥一般募集

「3月21日（月）猪高緑地自然観察会」

- ①名古屋支部
- ②名東社会教育センター前9:30
- ③朱雀英八郎 ☎052-911-5087
- ④春の観察会「春を探してみよう」

「3月13日（日）大高緑地自然観察会」

- ①名古屋支部
- ②大高緑地琵琶池ボート乗り場前9:30
- ③岩崎昇一 ☎052-624-6496
- ⑥原則 第二日曜日

「3月27日（日）知多自然観察会」

- ①知多支部
- ②東海市大池公園テニスコート横8:00
- ③加藤寿芽 ☎0562-83-8425
- ④大船山とフクジュソウの自生地観察、矢作川上流。時間あれば野草の試食会も。
- ⑥会員

「3月13日（日）尾張支部観察会」

- ①尾張支部
- ②尾西市歴史民俗資料館9:00
- ③後藤 春 ☎0586-45-1119
- ④尾西市の人々の暮らし・風俗と木曾川とのかかわり
- ⑥一宮駅西側より名鉄バス「起（おこし）」行き8:15・30・45，所要15分310円
「起」下車，南西へ300m歩く，堤防下にあります。堤防からの眺め雄大。

「3月27日（日）相生山緑地自然観察会」

- ①名古屋支部
- ②市バス停「相生山」
ベルソグリススクール駐車場9:30
- ③近藤記巳子 ☎052-822-7460
- ⑥原則 第四日曜日



「3月27日（日）湿地研究会」

- ①名古屋支部
- ②東谷山フルーツパーク神池駐車場10:00
- ③垣見 宏 ☎052-732-3350
- ④公開観察会「名古屋のシデコブシ」
- ⑥原則 第四日曜日

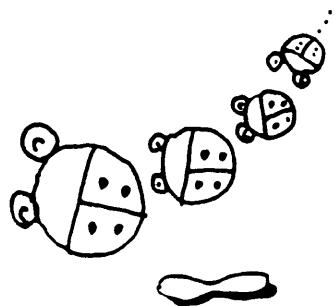
「4月3日（日）大森湿地自然観察会」

- ①名古屋支部
- ②守山環境事業局9:30
- ③塚本和義 ☎052-991-2668
- ⑥原則 第一日曜日



「4月3日（日）尾張支部観察会」

- ①尾張支部
- ②森林公園の第一駐車場北の案内所前9:00
- ③鬼頭 弘 ☎05613-8-2792
- ④身近な自然に親しもう
- ⑤3月より新登場の観察会（毎月第一日曜、8月は第二日曜）



「4月8日（金）知多自然観察会」

- ①知多支部
- ②阿久比町中央公民館18:30
- ③加藤寿芽 ☎0562-83-8425
- ④水田の雑草の生活について
- ⑤会員

「4月9日（土）猪高緑地自然観察会」

- ①名古屋支部
- ②名東社会教育センター前9:30
- ③朱雀英八郎 ☎052-911-5087
- ⑥原則 第二土曜日

「4月10日（日）知多自然観察会」

- ①知多支部
- ②東海市勤労センター9:30
- ③加藤寿芽 ☎0562-83-8425
- ④港の中の漂流物観察（干潮11:42）
- ⑤一般募集，30名以内，横須賀埠頭へ移動

「4月10日（日）大高緑地自然観察会」

- ①名古屋支部
- ②大高緑地琵琶池ボート乗り場前9:30
- ③岩崎昇一 ☎052-624-6496

「4月10日（日）尾張支部観察会」

- ①尾張支部
- ②愛環鉄道・山口駅9:00
- ③北岡由美子 ☎0561-84-2953
- ④春の女神ギフチョウに会おう
- ⑤参加費200円
- ⑥一般募集，瀬戸市・海上（かいしょ）の森の観察



「4月17日（日）東浦自然観察会」

- ①知多支部
- ②東浦町文化センター9:00
- ③降幡光宏 ☎0562-55-6855
- ④春の花木の観察（高根の森方面）
- ⑥一般募集

「4月17日（日）東山観察会」

- ①名古屋支部
- ②東山植物園正面入口前9:30
- ③武田 篤 ☎0564-21-4405
- ⑥原則 第三日曜日

「4月24日（日）知多自然観察会」

- ①知多支部
- ②富具崎港駐車場9:30
- ③加藤寿芽 ☎0562-83-8425
- ④磯の生物の観察（干潮10:47）
- ⑥会員，県委託の自然観察会の下見

「4月24日（日）武豊自然観察会」

- ①知多支部
- ②武豊中公民館9:30
自然公園鳥広場10:00
- ③相羽福松 ☎0569-72-2775
- ④植物観察入門Ⅰ，春の野草観察，昼食時に山菜の天ぷらパーティー
- ⑥一般募集

「4月24日（日）相生山緑地自然観察会」

- ①名古屋支部
- ②市バス停「相生山」
ベルイングリッシュスクール駐車場9:30
- ③近藤記巳子 ☎052-822-7460



「4月24日（日）大森湿地自然観察会」

- ①名古屋支部
- ②大森金城学院駅前9:30
- ③塚本和義 ☎052-991-2668
- ④公開観察会「大森湿地春の観察会」



「4月29日（金）尾張支部特別観察会」

- ①尾張支部
- ②三岐鉄道・西藤原駅9:00
- ③北岡明彦 ☎0561-84-2953
- ④春の花50種を捜そう
- ⑥毎年恒例「花の藤原岳観察会」

「5月1日（日）大森湿地自然観察会」

- ①名古屋支部
- ②守山環境事業局9:30
- ③塚本和義 ☎052-991-2668

「5月4日（水）武豊自然観察会」

- ①知多支部
- ②武豊中公民館9:30
自然公園鳥広場10:00
- ③相羽福松 ☎0569-72-2775
- ④植物観察入門Ⅱ，樹木の観察
- ⑥一般募集

「5月8日（日）大高緑地自然観察会」

- ①名古屋支部
- ②大高緑地琵琶池ボート乗り場前9:30
- ③岩崎昇一 ☎052-624-6496

「5月8日（日）尾張支部観察会」

- ①尾張支部
- ②名鉄広見線・善師野駅9:00 一般10:00
- ③山田博一 ☎0574-65-1541
- ④緑の雑木林は自然がいっぱい
- ⑥犬山市委託の観察会。一般参加の申込は犬山市へ。

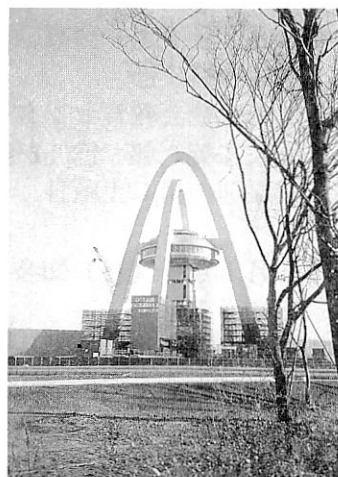
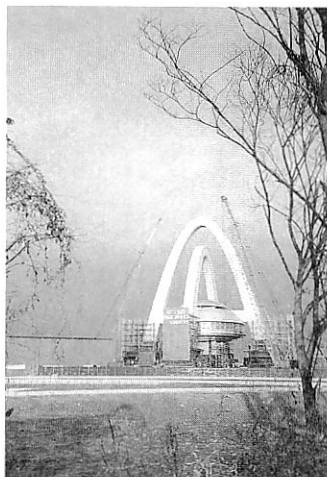
「5月14日（土）猪高緑地自然観察会」

- ①名古屋支部
- ②名東社会教育センター前9:30
- ③朱雀英八郎 ☎052-911-5087
- ⑥原則 第二土曜日

「5月15日（日）東山観察会」

- ①名古屋支部
- ②東山植物園正面入口前9:30
- ③武田 篤 ☎0564-21-4405

三派川センター展望塔（仮称）



1月

2月

- ★ 一宮市北部の木曽川左岸に広がる光明寺緑地に、リフトアップ工法により、タワーが建設中です。このタワー、下に継ぎ足していく方法で、だんだん背が高くなります。
- ★ 今年6月には最高の高さ138mになります。この138mというのはイチノミヤとも読めます。背が伸びるにつれて、市内の遠くからでも見るできるようになりました。
- ★ 完成後の展望塔からは、濃尾平野のすばらしい景観に出会えることでしょう。いまから楽しみです！！

（編集部から）